

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202114		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム清水興津の家 (1階、2階 合同)		
所在地	静岡県静岡市清水区八木間町1846		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kami=true&ligyosyoCd=2274202114-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年11月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

興津の家は、興津川河川敷に隣接している為、自然に囲まれており近くには公園・遊歩道があり散歩中に楽しめます。月に一度、歌のボランティアの訪問・カラオケの機会を購入し1F・2F合同のカラオケ大会を開催し、利用者さんも喜ばれています。又、貼り絵の得意な利用者さんと職員とで貼り絵を作成し掲示物にも力を入れています。食事も3食手作りで栄養面にも気を付けて提供し利用者さんにも大変喜ばれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護1~3の入居者が多いこともあり、「その人らしく ありのままに」という理念の実現はいたる処に見受けられ、日頃の努力は利用者のはつらつとした言動に見事に昇華されています。利用者が折り紙をちぎって遊ぶことから始まった「ちぎり絵、は他の利用者へと拡がり、現在は共用空間の壁が艶やかな力作で埋めつくされています。また、活動の積み重ねから個人名で作品展に出品した利用者もいます。「カラオケがしたい」と熱望する利用者の願いは法人本部を説得して、個人使用のカラオケを設置するに至りました。このカラオケも今ではほかの利用者も一緒に楽しんでいて、日曜日のNHKのど自慢を觀賞してからカラオケというイベントが定例化しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームでは独自の理念として「その人らしくありのままに」を掲げ理念を共有し又、実践に向けて行動し日々努力し取り組んでいます。	理念は職員間であらたに話し合い、リニューアルしています。職員は利用者に「〇〇してください」ということは言わないよう、また利用者がおこなうことを否定しないことを旨として、「その人らしくありのままに」を実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し敬老会・運動会・防災訓練など各行事に参加させて頂いています。	第二火曜日と定めて近所の歌のボランティアの訪問があります。本年はバンドによる音楽ボランティアも実現しています。また、受診日と重なると歌を優先したいという利用者もいるため、医師が受診日を調整し協力してくれています。	自治会等とは連携に努められていることが覗えますので、今後は異年齢交流も視野に入れ、福祉体験、職業体験の受け入れ希望があることを、小・中学校へ出向き伝えるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報も考え出来る範囲で情報を流し地域の高齢者に貢献できるサービスはないか職員で話し合っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回運営推進会議を行い、自治会長・民生員・地域包括・市職員など参加して頂き意見交換し情報や皆様方のアドバイスなどを頂いています。	自治会長に加え、区長も新しくメンバーに加わり、民生委員も3名参加していて、地域からの参加が盛況です。年間計画を事前に配布し、参加率を高める工夫していますが、本年は8月に熱発があり、夏風邪蔓延予防のため9月に変更し、年6回開催を遵守しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者を積極的に受け入れい今では、18名中14名が生活保護受給者です。介護保険証の更新などで区役所に足を運びつながりも密になり良い関係を築いています。	生活支援課とは業務上、密に連絡をとりあっていて、協力体制が構築されています。常に親切で丁寧な対応があり、安心して相談にのってもらえています。また、運営推進会議には包括職員の参加があり、本年はテーマについてアドバイスをもらうなど関わりが進行しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行ってはいけない事を理解し玄関の施錠は夜間のみとし居室の鍵は利用者の意志に任せ職員が鍵をすることはありません。	本部が配信するネット研修へ常勤者は年2回参加して、意識の継続に努めています。フィジカルロックをするようなことはありませんが、スピーチロックは「つい」ということもあるため、管理者は職員の言動と利用者の反応に気を配り、会議でも上げて話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本部から提供される研修資料・ネット放送を元にレポートを提出したり疑問などは職員会議などで話し合い防止に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターを利用されている利用者さんがいらっしゃるのである程度の事は分かっているつもりですがまだまだ勉強不足なのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約書・重要事項説明書などご家族に分かりやすく具体的に説明させて頂きご理解もっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの日頃の状況を説明しご家族が意見を言える雰囲気大切に面会時には利用者さんの日頃の様子を報告し又、ご家族の要望も受け入れられるように努力しています。	心身状態の変化は家族にも一緒に確認してもらい、家族の気持ちに配慮しています。また、面会時間も制限せず、家族の都合を優先しています。そのため家族もフランクで、例えば「理念は入口に大きく掲げたほうがいいよ」とアドバイスをもらい、現在は訪問者が必ず口にするほどの文字が玄関に踊っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開き職員が意見を言える場を設け管理者が職員とコミュニケーションをとるよう努めています。又、地域責任者にも2ヶ月に一度参加してもらい本部からの連絡事項などの話をしてもらいます。	運営に関することは職員会議でとし、カンファレンスと明確に分け、意見を言う場と時間を十分とっています。また、四季折々の行事は職員で考え、自主性と協働責任を高めるよう工夫しています。法人本部の忘年祭のほかにも事業所でも忘年会などをおこなっていて、職員のチームワークも安定しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とのコミュニケーションをとり意見などを聞き、勤務状況などの把握に努めて職員からの要望があればその都度意見を聞くようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・社外研修に出来るだけ沢山の職員が参加できる機会を設けるように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の方々との意見交換や交流の場を設けるよう努力しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と本人・ご家族が会う機会を作りコミュニケーションの中で本人やご家族の要望・生活歴などを聞き不安のない生活が送れるように観察し利用者さんに耳を傾け寄り添うケアをするように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に施設内を見学して頂き施設での利用者の生活の様子などを見ていただき、ご家族の要望などを聞き不安を最小限にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんの入居動機・既往歴・生活歴などをもとに何が必要なサービスなのかをご家族・管理者で考えサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の表情・感情を大切に利用者と共に生活することを意識して利用者の気持ちに出来るだけ寄り添えるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や受診時の検査結果などを連絡し、面会の際にご家族の意見・心配事などを聞き思いの共有が出来るように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームから遠くに住まれている方が多く入居されている為、馴染みのある場所へ連れていく事が出来ない状況ではあるが管理者よりご家族に連絡し馴染みのある方には面会に来て頂けるように努めています。	在宅のころの“ちぎり絵”、“チラシによるごみかごづくり”を継続している人もいます。悪化していた兄妹関係が、事業所での安定した暮らしを通じて関係修復が叶った例もあります。また、以前の部下がやっている料理屋に行きたいという利用者には、家族に協力をお願いして実現の予定です。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人と接することが苦手な方や耳が遠い方は職員が間に入りコミュニケーションの橋渡しができるように努めています。又、居室での一人の時間を出来るだけ作らないようにレクリエーションを行い参加してしてもらっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日常生活の様子・行事・受診対応などの様子を報告しご家族に安心して頂けるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が利用者さんの事を知ることで、その人らしい暮らしの希望や意見を聞き入れ出来るだけ意向に添えるように努めています。	介護度が低く、意思の確認が比較的容易です。食事のメニュー希望を都度聞いたり、ビデオが見たい人には職員が貸出ショップに付き添ったりなどをごく普通におこなっていて、自然に「その人らしくありのままに」という理念に帰納しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族・管理者などから話を聞き以前の暮らしの把握ができるように努め施設の中だけで過ごすことがないように屋外(散歩・外気浴・買い物・外食)へ出かけるように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人にあつた役割などを観察し家庭での生活に出来るだけ近いように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員個々の気づきなどをカンファレンスで話し合い意見交換をし介護計画を作成しより良いケアを目指しています。	計画作成担当者とケアマネージャーでモニタリングをおこなっていますが、カンファレンスで職員意見を通じて利用者の意向も反映させていて、現場との連携が充実しています。新しいケアマネージャーの着任から1年を経て、職員との相互コミュニケーションも深まってきていると管理者は感じています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人一人の体調変化や小さな気付きなどを具体的に記録し介護計画や対応に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議など広範囲の情報を活用し取り組んでいます。又、病院受診など行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者さん一人一人の性格・介護度などを理解した上で職員がサポートすることで落ち着いた生活を送ることができる。月に一度の歌のボランティア・季節ごとの行事の参加などで楽しみのある生活となるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診・急変・日常生活で異変があった際はすぐに連絡し指示を仰ぐようにしています。又、毎月誰がいつ受診したのかを記録しています。	家族が付添える利用者が極端に少ないため、やむを得ず内科医については協力医に替えてもらい、職員が受診支援しています。また、「その人らしく、ありのままに」との理念に基づいた対応から、薬でコントロールや抑え込む必要がなくなり、投薬が減った例が多くあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の利用者さんの健康状態やその他の情報を職員全員が把握し受診時に医師・看護師に意見を聞くようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院とこまめに連絡を取り利用者さんのその後の経過をみて早期に退院できるように施設側も病院に最大限の協力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院といつでも連絡を取れる体制を作っており又、ご家族とも終始連絡を取り現在の状態を説明し話し合いを行っている。	医療の伴わない看取りには取り組む考えでいて、協力医もできる範囲で支援してくれることになっています。また、日頃から利用者の心身の変化については家族に随時連絡していて、家族と話し合うことを大切に考えています。法人本部から配信されるネット研修で知識の共有化を進めています。開所以来の実績は1例です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故がおきた際は事故報告書を作成し、その事故報告書は職員全員が目を通し同じ事故が起きないように話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設で年2回防災訓練を実施。又、地域の防災訓練に参加し地域の防災担当者からアドバイスを頂いている。施設の防災訓練では、避難経路・通報装置・消火器の使い方の確認を行っている。	地域の防災訓練に利用者と一緒に参加しています。また、避難場所は散歩コースである公園のため、日常的に避難場所へ出向けています。地域の防災担当者には運営推進会議に参加してもらっていて、事業所の防災について具体的なアドバイザーが身近にいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	98歳から61歳の利用者さんが入居されているので、一人一人の人格を尊重しプライドやプライバシーを損ねないように声掛けをし対応に配慮しています。	管理者は職員に目配りしながらも、ルールでしぼらないことを旨としていて、職員はオープンでのびのびとしています。管理者と職員がフラットな関係のせいも、利用者との関係も丁寧な対応のなかに親しさが感じられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの希望されたことについては話をよく聞き希望にそえるように職員も相談にのるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者の体調に合わせて体操や散歩・レクリエーション・入浴などご自分のペースに合わせて自由に行えるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度、訪問理美容を利用し利用者さんの好きな髪型・好きな衣服を選んでもらいその人にあったおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員だけが決めるのではなく利用者さんにリクエストしてもらい職員が作っています。2ヶ月に一度の行事食も楽しみにされています。片付けなどは、利用者さんの出来る範囲で手伝ってくれます。	食事前に嚥下体操をしていて、量も速度も健常者を上回る様子でした。利用者のリクエストでメニューを決めることが多く、副菜やデザートもついていて、目にも楽しく盛り付けられています。2ヶ月に1度、外食または行事食に取り組んでいます。行事食を持参して公園に出掛ける事もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のメニューは検食簿でチェックし同じメニューが続かないように栄養バランスにも工夫している。水分量もチェック表でチェックし1日の水分摂取量も確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で行える利用者には声掛けをしてやって頂き介助の必要な利用者には職員が介助している。毎食後、口腔ケアを行い常に口腔の清潔保持に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて個々の排泄のパターンを把握することにより、間隔が分かり排泄の訴えがない利用者にはさんには声掛けをし誘導しています。	98歳車椅子の利用者もトイレまでは自走できていて、“できるところまでは自分で、を方針としています。自立の、特に女性は便の有無について羞恥心があるため、トイレ使用後に職員が匂いを確認するなど工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をしっかりと行い食事などにも気を配り職員で話し合い対応を考えている。それでも排便がない場合は医師に相談した上で薬で調節するようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴を実施しています。体調が悪い方は、清拭を行い、入浴拒否の方には入浴日以外でも希望に応じて入浴ができるようにしています。	肌の乾燥や体面を配慮しつつも希望があれば応えたいとの思いから、1階と2階で日替わりに湯をはっていて、日曜日以外毎日利用することもできます。旅館のような広い浴槽のため、2~3人で誘い合って仲良く入ることもあり、冬は緑深いお茶湯も楽しみの一つとしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の換気・室温の調節・布団や上着などの調節などを行い気持ちよく眠れるように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬管理に目を通し把握するように心掛けています。薬に関して疑問点などがあれば医師に相談し指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	なるべく家庭と同じ生活をして頂き出来る範囲で家事などを手伝って頂いている。又、月に一度の歌のボランティアの訪問・季節に応じた行事を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気やその日の利用者の体調に応じて近隣の散歩や外気浴・外食・買い物など支援しています。	お風呂上りに常飲している珈琲や皇族雑誌など、買い物に行きたいとの声があれば、職員と一緒に掛けることが常となっています。職員の配置に余裕が生まれてからは、散歩や外気浴の時間も増えています。畑での作物を育てることを楽しみにしている利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はお小遣いとして施設で管理し希望があれば職員と一緒に買い物に出かけます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんより電話の訴えがあれば職員が聞き管理者よりご家族に連絡し利用者さんとかかわるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに色々な行事を行っています。職員と利用者さんと協力し掲示物を作成しています。共用スペースは温度管理などを行い居心地よく過ごせるようにしています。	壁を埋め尽くすちぎり絵は色づかいが鮮やかで、見る人の目を引く力作です。空間の5S同様、行事の思い出写真も丁寧に掲示され、気持ちよく整理されています。毎朝掃除をして、換気もともに行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人、個室になっており個人のプライバシーは守られています。リビングにソファを置き思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんご家族で話し合い使い慣れたものを持ちこまれ家に居た時と同じように過ごして頂いています。又、居室には、クローゼット・ベット・洗面・エアコン・カーテンなどが備え付けてあり清潔感を保っています。	担当の職員が利用者の趣味嗜好に合わせて掲示物を選んだり、家族からの手紙が貼られていて、それぞれの居室の雰囲気があります。掃除機での清掃を職員がおこない、利用者もできる範囲で取り組んでいます。女性職員が布団干しをしていると、男性利用者が手伝ってくれます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	10時のラジオ体操・毎食前の嚥下体操を行い毎日リズムのある生活を送っています。自分で出来ることは自分で行ってもらい出来ないところは職員が手伝っています。		